

Combinatorial background of paragroups

北大 理	日比 孝之
筑波大 数学	Takayuki Hibi
北大 理	飯齋 信保
筑波大 数学	Nobuo Iiyori
北大 理	伊藤 豊治
筑波大 数学	Toyoharu Itoh
北大 理	増田 哲也
筑波大 数学	Tetsuya Masuda

§1 序

1990年 Fields賞を受賞した Jonesによる von Neumann環の部分因子環の指數理論は大変有名であるが、驚嘆すべき現象のひとつに、4より小さい指數の値が

$$4\cos^2(\pi/c), \text{ 但し } c \text{ は } A_n, D_n, E_6, E_8 \text{ の Coxeter 数 } \cdots \cdots (\star)$$

と離散的になることが挙げられる。ここで Dynkin 図形に付随する Coxeter 数が出現するが、その背景には、von Neumann環の部分因子環が上記に対応する状況では Dynkin 図形によつて分類され、とハラ事實が潜んでいる。この仕組みは 1987 年頃に "発表" された Ocneanu の理論によるものであり、ここでは paragroupなる概念が重要な役割を演じてゐる。Ocneanu 自身によれば、paragroup は有限群を一般化した概念で、その位数が (\star) のように必ずしも整数とは限らない値を持つもの、と解説されてゐる。もちろん、von Neumann環の部分環の分類に際して発見された paragroup の記述には関数解析学の言葉が用いられるが、しかし、Dynkin

図形あるいは Coxeter 数と何ら役者が登場することからも推測されるように、組合せ論や対称群の表現論などがその本質に携わる部分に影を投じてゐる。更に、広範な領域に目を移せば、可解格子模型、結び目の理論と 3 次元多様体の不変量、共形場理論、ソリトンに関する佐藤理論、あるいは量子群の表現論などとの深い相互関係も予想される。実際、Ocneanu による paragroup の定式化の中で、可解格子模型の理論に現われる inversion relations や crossing symmetry などと酷似したもののか姿を見せてゐる。

この Ocneanu による paragroup の理論により、代数的、組合せ的な言葉で表現された問題が、解析的な理論を用ひることで解決され得る。我々の仕事の根底を流れる哲学は、代数的、組合せ的な立場から解決しようとすることである。

§2 Paragroup の 定義

2.2. paragroup は次の様な graph 上で定義される。いま、 Γ_i ($i=1,2,3,4$) を finite, undirected そして bipartite graph (multi-edge を認める。) で次の性質を満すものとする：

$$(1) \quad V(\Gamma_i) = V_{i,0} \cup V_{i,1} \quad \text{disjoint union}$$

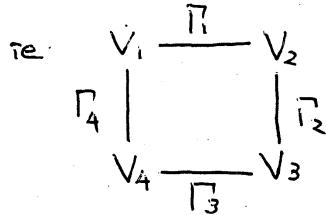
但し、 $V_{i,0}$ は Γ_i の even vertices の集合

$V_{i,1}$ は Γ_i の odd vertices の集合

とするとき、

$$V_{1,1} = V_{4,1} (=: V_1), V_{2,0} = V_{1,0} (=: V_2), V_{3,1} = V_{2,1} (=: V_3)$$

$$V_{4,0} = V_{3,0} (=: V_4).$$

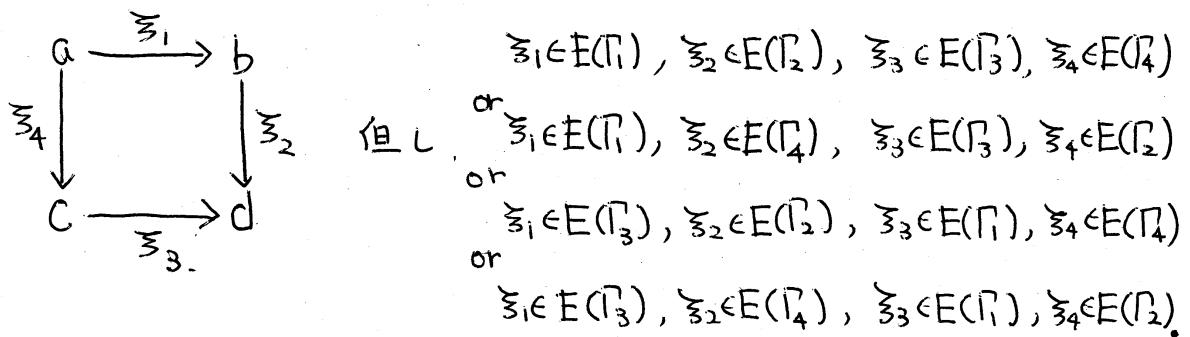


(2) Θ_i を Γ_i の接続行列の Perron-Frobenius 固有値 ($i=1,2,3,4$)

とするとき、

$$\Theta_1 = \Theta_3, \Theta_2 = \Theta_4.$$

我々は、 $=$ の 4つの graph Γ_i ($i=1,2,3,4$) 上に与えられた次の様な図形を cell と呼ぶ。



そして、この cell 全体の集合から \mathbb{C} への写像 W を connection

とする。

$$W\left(\begin{array}{ccc} a & \xrightarrow{\zeta_1} & b \\ \downarrow & & \downarrow \\ c & \xrightarrow{\zeta_3} & d \end{array}\right) \in \mathbb{C}$$

以下、混乱が生じる限り W を省略して cell のみによらず connection W の値を表わす。

$\geq 2 \mu_i$ を \oplus_i の固有ベクトルとする。このベクトルの
index は $V(\Gamma_i)$ たの \geq

$$\mu_i : V(\Gamma_i) \rightarrow \mathbb{C}$$

と考えられる。この記号における

$$\mu : V_1 \cup V_2 \cup V_3 \cup V_4 \rightarrow \mathbb{C}$$

$$j \quad x \longmapsto \mu(x) = \begin{cases} \mu_1(x) & x \in V_1 \text{ or } V_2 \\ \mu_3(x) & x \in V_3 \text{ or } V_4. \end{cases}$$

とする。

次に connection W に対する条件, crossing symmetry と
unitarity を定義する。

(a) crossing symmetry.

$$\begin{array}{c} a \xrightarrow{\xi_1} b \\ \downarrow \xi_4 \quad \downarrow \xi_2 \\ c \xrightarrow{\xi_3} d \end{array} = \frac{\mu(b) \mu(c)}{\mu(a) \mu(d)} \begin{array}{c} b \xrightarrow{\xi_1} a \\ \downarrow \xi_2 \quad \downarrow \xi_4 \\ d \xrightarrow{\xi_3} c \end{array}$$

$$= \frac{\mu(b) \mu(c)}{\mu(a) \mu(d)} \begin{array}{c} c \xrightarrow{\xi_3} d \\ \downarrow \xi_4 \quad \downarrow \xi_2 \\ a \xrightarrow{\xi_1} b \end{array}$$

(b) unitarity

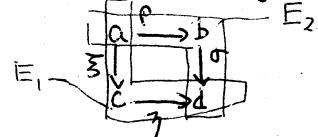
$$\sum \begin{array}{c} a \xrightarrow{\xi_1} b \\ \downarrow \xi_4 \quad \downarrow \xi_2 \\ c \xrightarrow{\xi_3} d \end{array} \begin{array}{c} a \xrightarrow{\xi_1} b \\ \downarrow \xi_4 \quad \downarrow \xi_2 \\ c' \xrightarrow{\eta_3} d \end{array} = S_{\xi_3, \eta_3} \cdot S_{\xi_4, \eta_4} \cdot \delta_{c, c'}$$

すなわち、 $a \in V_i, d \in V_{i+2}$ を固定するとき、

$$E_1 := \left\{ \begin{matrix} \overline{\gamma} \\ \downarrow c \\ \gamma \end{matrix} \xrightarrow{a} d \mid c \in V_{i+3}, \overline{\gamma} \in E(\Gamma_{i+3}), \gamma \in E(\Gamma_{i+2}) \right\}$$

$$E_2 := \left\{ \begin{matrix} \overline{\alpha} \\ \xrightarrow{e} b \\ \downarrow \sigma \\ d \end{matrix} \mid b \in V_{i+1}, e \in E(\Gamma_i), \sigma \in E(\Gamma_{i+1}) \right\}$$

$\times L_2$,

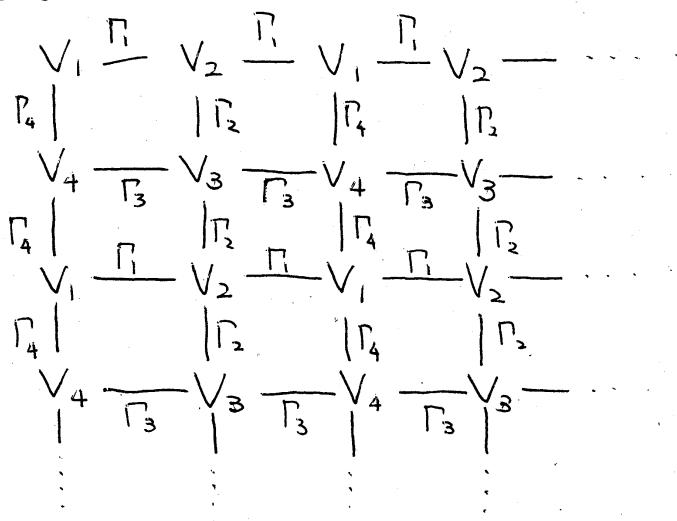


$$\left(\begin{smallmatrix} \overline{\alpha} & \downarrow \\ \downarrow & d \end{smallmatrix} \right) : E_1 \times E_2 - \text{行列 over } \mathbb{C}$$

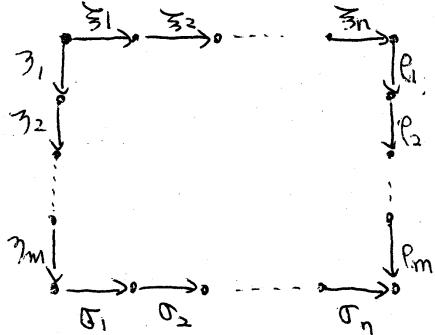
$$\left(\begin{smallmatrix} \overline{\alpha} & \downarrow \\ \downarrow & d \end{smallmatrix} \right) \left(\begin{smallmatrix} \overline{\gamma} \\ \downarrow c \\ \gamma \end{matrix} \xrightarrow{a} d, \begin{matrix} \overline{\beta} \\ \xrightarrow{e} b \\ \downarrow \sigma \\ d \end{matrix} \right) = W \left(\begin{smallmatrix} \overline{\alpha} & \xrightarrow{e} b \\ \downarrow c & \downarrow \sigma \\ \gamma & d \end{smallmatrix} \right).$$

とすると。このとき、connection W が unitarity を満たすとは、行列 $\left(\begin{smallmatrix} \overline{\alpha} & \downarrow \\ \downarrow & d \end{smallmatrix} \right)$ が unitary 行列であることをいふ。

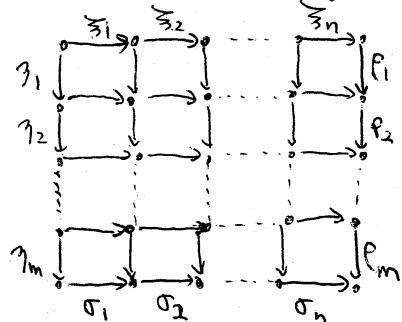
他方、flatness の定義があるが、それは次の様な無限 graph の上に考えること。



二二二、 Σ の無限 graph 上での次の様な图形の connection の値を
以下のようにして与える。



まず、二の图形に張り合せる二つの 2 次元の cell を張り合せる。



そして、それぞれの cell の connection の値の積を取る。また別の張り合せに対しても同様に積を取り、前の積に加える。この操作を可能にするだけ行う。

例えば $T_i = \begin{array}{c} a \\ \diagdown \quad \diagup \\ b \quad c \\ \diagup \quad \diagdown \\ d \quad e \end{array}$ $i=1,2,3,4.$ $V_1 (=V_3) = \{a, c, e\}$
 $V_2 (=V_4) = \{b, d\}.$

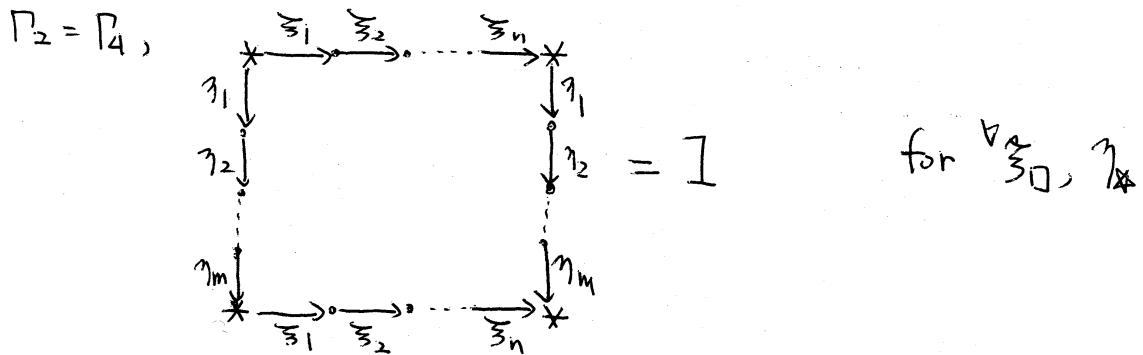
とするとき、

$$\begin{aligned} a \rightarrow b \rightarrow a &= a \rightarrow b \rightarrow a + a \rightarrow b \rightarrow c \rightarrow b \\ \downarrow &\quad \downarrow \quad \downarrow \quad \downarrow \\ b &\rightarrow a \rightarrow b + b \rightarrow c \rightarrow b \\ \downarrow &\quad \downarrow \quad \downarrow \quad \downarrow \\ c \rightarrow b \rightarrow a &\quad c \rightarrow b \rightarrow a \\ &= \left\{ \begin{array}{l} a \rightarrow b \rightarrow a \times b \rightarrow a \rightarrow b \\ a \rightarrow b \rightarrow c \rightarrow b \times c \rightarrow b \rightarrow a \end{array} \right\} \\ &+ \left\{ \begin{array}{l} a \rightarrow b \rightarrow a \times b \rightarrow a \rightarrow b \\ a \rightarrow b \rightarrow c \rightarrow b \times c \rightarrow b \rightarrow a \end{array} \right\} \end{aligned}$$

である。

以上の記号を用いて flatness は次の様に定義される。

V_1 の点を \square 取り、その点を $*$ とする。そして $P_1 = P_4$,



をみたすとき、connection W は flat であるといふ。

定義 $(\{P_1, P_2, P_3, P_4\}, W)$ は paragroup である。

$\overset{\text{def}}{\iff}$ connection W は crossing symmetry, unitarity
そして flatness をみたす。

そして β を P_i の隣接行列の Perron-Frobenius 固有値とする
とき、 β を paragroup $(\{P_1, P_2, P_3, P_4\}, W)$ の位数といふ。

例。 G が有限群、 $\text{Rep}(G)$ が G の既約な \mathbb{C} -タリ-表現
の代表系とする。 $G = \{g_1 (=e), g_2, \dots, g_m\}$, $\text{Rep}(G) = \{P_0, P_1, \dots, P_d\}$

このとき、 $P_1 (=P_4)$: $\begin{array}{c} * \\ g_1 \quad g_2 \quad \cdots \quad g_m \\ \searrow \quad \swarrow \end{array}$ $V_1 = \{g_1, \dots, g_m\}$
 $V_2 = \{x\}$.

$P_3 (=P_3)$: $\begin{array}{c} x \\ \diagup \quad \diagdown \\ P_0 \quad P_1 \quad P_2 \quad P_d \end{array}$ edge \in P_i の次数本 $V_3 = \{P_0, P_1, \dots, P_d\}$
 $\times m_3.$ $V_4 = \{x\}$.

とする。Perron-Frobenius 固有値は \sqrt{n} 。

$$\therefore \text{固有ベクトルは } M(g_i) = \gamma \quad i=1,2,\dots,n.$$

$$\mu(\gamma) = \sqrt{n}.$$

$$\mu(\rho_i) = \deg(e_i) \quad i=1,2,\dots,d.$$

となる。connection は..

$$W \begin{pmatrix} g_i & \xrightarrow{x} \\ \downarrow & \downarrow b \\ x & \xrightarrow{a} e_i \end{pmatrix} = (\rho_j(x))_{(a,b)}$$

によると、 γ がえらばれると $(\{\Gamma_1, \Gamma_2, \Gamma_3, \Gamma_4\}, W)$ は paragroup となる。
($g_i (=e)$ を γ とする。).

§ 3 2-skeleton について。

以下では、paragroup の graph の部分を 2-skeleton として定義し、その諸性質について考察する。

定義

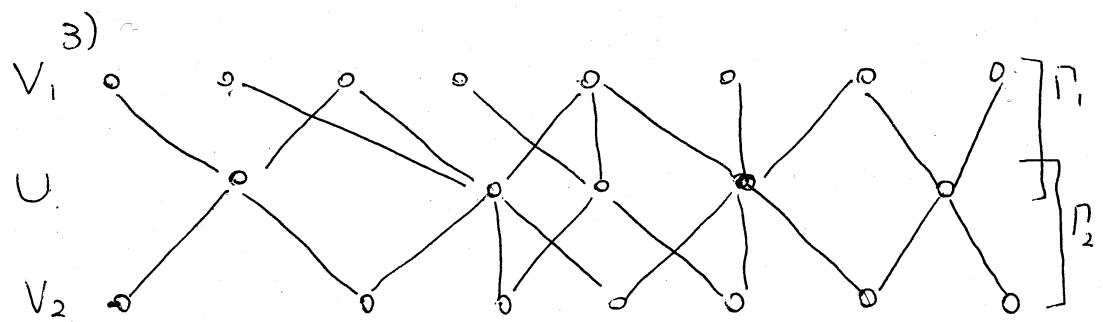
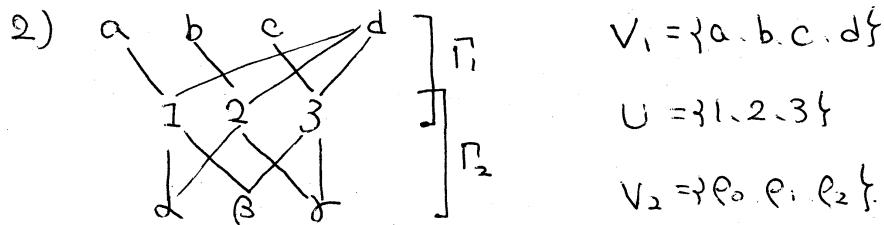
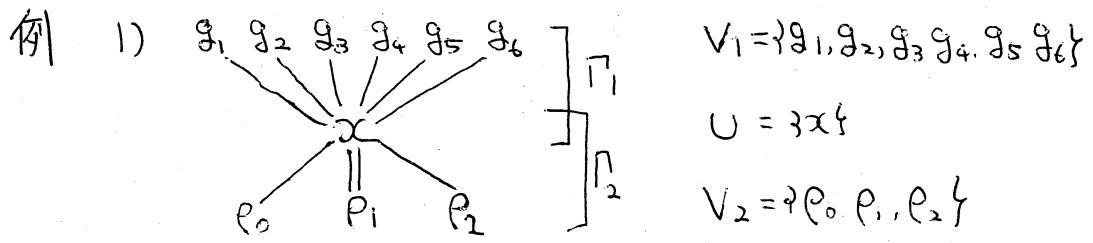
有限集合、 V_1, V_2, U が与えられており、bipartite graph Γ_i を odd vertices の集合が V_i 、even vertices の集合が U とする、undirected multi-edge を認めるものとする。 $(i=1, 2)$ このとき、 (Γ_1, Γ_2) が 2-skeleton であるとは、

$$\# N_{xy}^{(1)} = \# N_{xy}^{(2)} \quad \text{for } \forall x, y \in U$$

$$\text{但し. } N_{xy}^{(i)} = \{(z, y) \in E(\Gamma_i) \times E(\Gamma_i) \mid v(z) = x, v(y) = y, v_i(z) = v_i(y)\}$$

$v(z)$ は edge z の U 側の点、 $v_i(z)$ は i 側を同様

みなすときをいう。



以下 体 K を固定する。

いま $A(\Gamma_i)$ を Γ_i の隣接行列とし、 $A(\Gamma_i)$ の index は V_i, U の順序で並べると、 Γ_i は bipartite graph なので次の様になる。

$$A(\Gamma_i) = \begin{pmatrix} 0 & {}^t A_{\Gamma_i} \\ A_{\Gamma_i} & 0 \end{pmatrix}_{V_i \times U} \quad \text{但し, } A_{\Gamma_i} \text{ は } A(\Gamma_i) \text{ の } U \times V_i - \text{部分行列} \text{ とする, } (i=1,2).$$

$= n \times m$,

$$S := \begin{pmatrix} 0 & {}^t A_{\Gamma_1} & 0 \\ A_{\Gamma_1} & 0 & 0 \\ 0 & 0 & I_{V_2} \end{pmatrix}_{V_1 \times U \times V_2} \quad T := \begin{pmatrix} I_{V_1} & 0 \\ 0 & A_{\Gamma_2} \\ {}^t A_{\Gamma_2} & 0 \end{pmatrix}_{U \times V_2}$$

とする。但し I_{V_i} は $|V_i| \times |V_i|$ -単位行列。

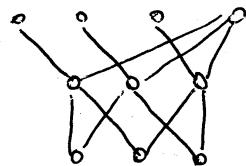
命題.1 次の(1)~(3)は同値である。

(1) (P_1, P_2) は 2-skeleton

(2) $STS = TST$

(3) $\exists X \in \text{Mat}_{M_1, M_2}(k)$ s.t. $A_{P_1}X = A_{P_2}$, $A_{P_2}^tX = A_{P_1}$.

例. (P_1, P_2) を



とするとき

$$A_{P_1} = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 1 & 1 \end{pmatrix}, \quad A_{P_2} = \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 \\ 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

とする。このとき $X = \begin{pmatrix} \frac{1}{2} & \frac{1}{2} & -\frac{1}{2} \\ -\frac{1}{2} & \frac{1}{2} & \frac{1}{2} \\ \frac{1}{2} & -\frac{1}{2} & \frac{1}{2} \\ \frac{1}{2} & \frac{1}{2} & \frac{1}{2} \end{pmatrix}$ となる。

$$A_{P_1}X = A_{P_2}, \quad A_{P_2}^tX = A_{P_1} \quad \text{となる}.$$

定理.2 (P_1, P_2) を 2-skeleton とする。 $\#V_1 \leq \#V_2$ のとき、

次が成り立つ。

$$(1) \det(xI - A(P_2)) = x^{\#V_2 - \#V_1} \det(xI - A(P_1)).$$

(2) $\forall \beta \in \text{Spec}_k^x(A(P_i)) := k$ 上 $A(P_i)$ の non-zero 固有値の集合 ($i=1,2$) に対し $x^{(i)}$ を β の $A(P_i)$ に対する固有ベクトルとする。

このとき、

$$\exists v_p^{(1)}, v_p^{(2)} \quad s.t. \quad v_p^{(i)}(x) = \lambda v_p^{(j)}(x) \quad \text{for } \exists \lambda \in k \quad \forall x \in U.$$

この定理の(1)は、2-skeleton を成す (P_1, P_2) に対し $A(P_1)$ と $A(P_2)$ の non-zero 固有値は重複度を含め 2 一致することを表している。また(2)の結果における固有値 $\beta \neq 0$ の各々の固有ベクトルをうまく取るとして

$$\begin{aligned} \mu: V_1 \cup V_2 \cup U &\longrightarrow k \\ ; \quad x &\longmapsto \mu(x) = \begin{cases} v_p^{(1)}(x) & x \in V_1 \cup \\ & \\ \lambda v_p^{(2)}(x) & x \in V_2. \end{cases} \end{aligned}$$

となる μ が定義される。よって 2-skeleton 上で crossing symmetry, unitarity なら flat な connection を持つことができる。

$$\begin{array}{ccc} V_1 & \xrightarrow{\Gamma_1} & U \\ \downarrow \Gamma_1 & & \downarrow \Gamma_2 \\ U & \xrightarrow{\Gamma_2} & V_2 \end{array}$$

尚、ここでは紙数の都合上から細部にふれることが出来なかった。参考文献を含め、詳しいことは、現在準備中の論文を参照していただきたい。

(付記) この仕事を始めたのは、1991年の春に筑波の高エネルギー物理学研究所で行なわれた Okoneanu 理論の勉強であった。その時、講師を引き受け下さった東大の河東泰之氏に感謝する。